





時代に合わせて柔軟に事業を変化させつつも、住友グ ループのベースは人間の根源的な営みにあると感じまし た。理念も基本的な内容でありながら、人間の欲が出たと きについ見失ってしまうことが指摘されています。末岡先生 から伺ったお話は、どれも人間味のあるエピソードばかり。 失敗から教訓を得ながら430年の歴史を支えてきた方々の 顔がはっきりと目に浮かぶようで、「住友グループ」という大 きな存在がより身近に感じられるようになりました。



2代総理事伊庭貞剛が引退後に居住した邸宅であった住友活機園(滋賀)にて。

0 が れる

小谷 真生子 氏

なる

ベ

ションに期



1800

初代の教えがグ 商売の前に人格を磨 プの の原点

「文殊院旨意書」が家業永続の理念とされる[1761]



の阪島 四阪島製錬所

新居浜

新居浜(惣開)製錬所

1650

蘇我理右衛門、京都で銅精錬所を開業し[1590]、南蛮吹を開発[1596~1615] 🔾

住友家初代 政友[1585~1652] ○■

■○ 別子銅山開坑[1691]



は

1600

■○ 住友2代 友以、京都から大坂に進出[1623]

430年続く事業精神で、持続可能な社会を目指す



住友グループ発展略図 詳しくはこちら→ 明治時代から発展した住友グループの企業は

から大正期にかけて、別子銅山から重化学

工業や金融業へと移行する住友の発展期を

小倉の大きな功績は、相場の変動やイン

フレに強いとされる金の鉱山事業を成功さ

せたことである。1917(大正6)年、北海道に

あった鴻之舞金山を買収するもなかなか鉱



SUMITOMO Topic

それは大義にかなっているのか?

事業家、政治家として国家に尽くした小倉正恆

脈を見つけられず、一時は閉山の危機に直 6代総理事小倉正恆

面する。しかし「人を信じて人をよく使う」という信念に従い、担当技師の

言葉を信じて粘り強く投資を続け、8年目にして東洋随一の大鉱脈を発見

した。また、1941(昭和16)年には政界に転出し、第3次近衛内閣の大蔵大

鴻之舞金山跡の全景(紋別市) 正夫らの人物に受け継がれていった。

臣に就任。全国に9つの配電会社(電力

会社の前身)を設立し、電力エネルギー

住友時代も、政治家時代も一貫して

国家や国民のために尽くすという大義

を重んじてきた小倉。その理想は後に

関西国際空港や国鉄改革で国家的プロ

ジェクトを成し遂げた日向方斉や亀井

の国家管理に協力した。





2000 ■○ 大阪市東洋陶磁美術館寄付[1980] ■■■○ 公益財団法人 住友財団設立[1991]

SUMITOMO Topic

日本を欧米に比肩する一等国へ

鈴木馬左也の大阪ウオーターフロント計画

1916(大正5)年、鈴木は大阪市が進める大

阪港桟橋拡張工事に資金を拠出するだけで 3代総理事 鈴木馬左也

なく、自らが陣頭指揮を執ってこの大阪港北側エリアの開発にあたった。

3年後には大阪北港株式会社(現住友商事)を設立し、住友系列の金属、

電線、化学工場を建造するとともに、大阪瓦斯(ガス)といった外部企業も

誘致するなど、日本を代表する一大工業地帯の礎をつくりあげていった。

総理事就任に際して

発した「自分は正義公道

を踏んで、皆と国家百年

の仕事をなす考えであ

る」という言葉通り、鈴木

はその後も住友の事業

と日本の産業発展に生

涯を捧げている。

スタジオ・ジャパンが位置する大阪市此花区

の湾岸エリア。そこにはかつて、多くの工場が

集積していた。商都大阪を近代化させるうえ

で大きな役割を果たすことになる、この「大阪

ウオーターフロント」の開発に心血を注いだの

が住友第3代総理事の鈴木馬左也である。

1919年12月に設立された大阪北港株式会社

○ 大阪図書館寄付[1904] ○ 鈴木馬左也[総理事1904~22]

1900

○ 伊庭貞剛[総理事1900~04] 工都新居浜の繁栄策[1927] ■

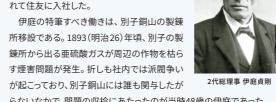
■○ 外国人技師を雇用し近代化プラン策定 [1874~1875]

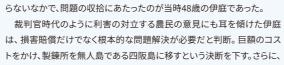
1850

SUMITOMO Topic

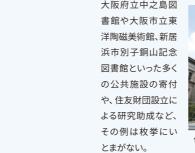
「火中の栗を拾う」伊庭貞剛の決断

所、大阪上等裁判所などで司法職を務めたの ち、叔父である初代総理事・広瀬宰平に請わ れて住友に入社した。









SUMITOMO Topic

古くから息づく「公益との調和」

じりりたこうしいちにょ 「自利利他公私一如」の精神

「自利利他」とは、「自らの仏道修行で得た功徳を、自分が受け取るとと もに、他のためにも仏法の利益をはかる」ことを意味する仏教用語。「公 私一如」は「公」に思えることも「私」に通じ、この2つは相反せず1つのも のであるという意味だ。これが「住友自身を利するとともに、国家を利し、 かつ社会を利するものでなければならない」という住友の事業の根幹に ある価値観につながっている。

召和初年、別子銅山の経営トップであった鷲尾勘解治(わしおかげじ) もこの教えを守った。銅山が残り50年で枯渇することがわかると、港を整 備し、化学や機械、アルミといった工場を誘致したが、その背景には住友 のみならず、銅山閉山後の地域経済を守りたいという思いがあった。 こうした「公益との調和」に取り組む姿勢は住友に深く根付いており、

大阪府立中之島図



(現大阪府立中之島図書館)

SUMITOMO Topic

「別子銅山」がもたらしたもの

から海面下約1,000~におよぶ世界に知られる巨大銅山だ。板状の銅鉱 脈が地下深く続き、1690(元禄3)年の発見以来、約65万トンの銅を産出 し、住友の事業の原資を生み出した。

しかし、住友が別子銅山から得たものは、利益だけではない。鉱山周 辺に道や橋、従業員が暮らす家や町をつくり、また自然との闘いの中で火 災や落盤、水害といったたびたび起こる災害とも向き合ってきた。取引先 も含め、銅山に関わる多くのステークホルダーとの関係を築いていくな かで「地域社会が豊かにならずして、住友の繁栄はない」ことを学んだ。

一方、銅は国際的な貿易商品であったため、グローバルな視点をもた らす要因にもなった。江戸時代、大坂の住友本店にはオランダ商館長一 行が訪れ、彼らを通して国際情勢や先端技術情報をいち早く吸収できた ことが、明治以降のグループの近代化につながっていく。



SUMITOMO Topic 住友精神の原点

▲ 「文殊院旨意書」書かれる[1650年頃]

住友家初代・住友政友の教え

れた涅槃(ねはん)宗の僧侶であった。政友は 故あって僧籍を離れてもなお、この世の苦し みから人々を救う「衆生済度(しゅじょうさい ど)」を実践すべく、仏典や学術書の出版と、薬 屋を営んだ。武士や商人とは異なり、自家では なく社会のために生きる僧侶を家祖に持つこ とは、住友の事業のあり方を方向付けた。



政友が遺した書簡「文殊院旨意書(もんじゅいんしいがき)」は、住友精 神の原点とも言えるものだ。前文では、何事も粗略にせず心を込めて丁 寧慎重に励むよう説かれている。さらに、安物が持ち込まれても出所がわ からないものは盗品と心得て仕入れてはいけない、誰であれ宿を貸した



り物を預かったりしてはならな い、他人の仲介や保証人になって はいけない、掛け売り・掛け買い はしてはならない、他人がどのよ うなことを言っても短気を起こさ ず繰り返し説明せよといった、現 代ビジネスにも通じる教えが簡 潔に書かれており、現在もグルー プで大切に受け継がれている。

